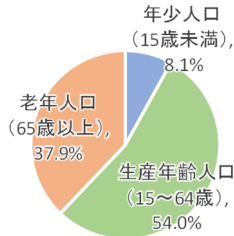


# 福 富 (ふくとみ)

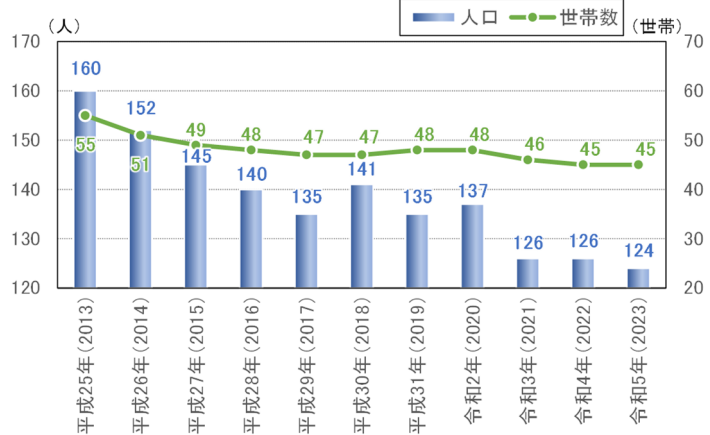
## 人口・世帯数等 (令和5年4月)

人 口	124 人
世 帯 数	45 世帯
高齢化率	37.9 %

### 年齢別人口割合



## 人口・世帯数の推移 (過去10年間)



## 区域の概要

**立 地** 集落の北側を流れる久斗川と南西側を流れる岸田川に挟まれ、南側を JR 山陰本線・国道 178 号 (旧浜街道) が走る。

**地名由来** 古くは新田村と称した。弘治3年 (1557) の『但馬国にしかた日記』や永禄年間 (1558~1570) の『相応峰寺過去帳』、元和3年 (1617) の『二方郡高帳』に「新田村」・「新田」と見える。福富村と改称したのは寛文12年 (1672) と伝わり、以前周辺が「沼地の淵」「ドブ池」であったことから、由来は予祝名「福富」と思われる (『たじま地名考』日本海新聞)。

**歴史等** 集落は、以前は久斗川対岸の本居、岡住付近にあったという伝承がある。中世は新田村と本居村があり、近世に併合されて、その後正法寺も福富地内に再建されたとされる (『たじま地名考』日本海新聞)。

近世の福富村は、豊臣政権下では太閤蔵入地 (豊臣氏の直轄地) で、江戸時代には、慶長10年 (1605) 旗本宮城氏知行、正保元年 (1645) 幕府領、寛文8年 (1668) 豊岡藩領、享保12年 (1727) からは幕府領となった。家数は、宝暦10年 (1760) 36、嘉永元年 (1848) 33。天保5年 (1834) の『但馬国郷帳』 (天保郷帳) の村高は 254 石余。

明治22年 (1889) 大庭村の大字となり、昭和29年 (1954) からは浜坂町の大字となる。明治24年 (1891) の戸数 39、人口は男 110・女 120。

## これまで把握している文化財

文化財の件数 18 件 (うち指定等文化財 3 件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等		
有形文化財	建造物	建築物	0	5	0	
		石造物	0		0	
		工作物・その他の構造物	1		0	
	美術工芸品	彫刻	2		0	
		絵画	0		0	
		工芸品	2		0	
		書跡・典籍	0		0	
無形文化財	音楽	古文書・歴史資料・考古資料	0	0		
		音楽	4	0		
	演劇	演劇	0	0		
		工芸技術	0	0		
		その他の無形文化財	0	0		
	民俗文化財	有形の民俗文化財	信仰の場	3	5	0
			祭具	0		0
民具			0	0		
その他の有形の民俗文化財			0	0		
無形の民俗文化財		年中行事・民俗芸能	2	1		
		民俗技術	0	0		
		食文化	0	0		
記念物	遺跡	民間説話・俗信	0	0		
		その他の無形の民俗文化財	0	0		
		散布地・集落跡・生産遺跡	1	0		
	名勝地	古墳・その他の墓	1	1		
		城館跡・神社跡	0	0		
		街道・古道等	1	0		
		戦争遺跡	0	0		
	動物・植物・地質鉱物	その他の遺跡	0	0		
		山岳・高原・丘陵	0	0		
		海岸・海浜・島嶼	0	0		
文化的景観	河川・滝・渓谷・湖沼	0	0			
	公園・庭園	0	0			
	その他の名勝地	0	0			
伝統的建造物群	動物	0	0			
	植物	1	1			
伝統的建造物群	地質鉱物	0	0			
	生活・産業・風土により形成された景観地	0	0			
伝説的建造物群	宿場町・城下町・農漁村等	0	0			



福富の地藏堂



福富麒麟獅子舞



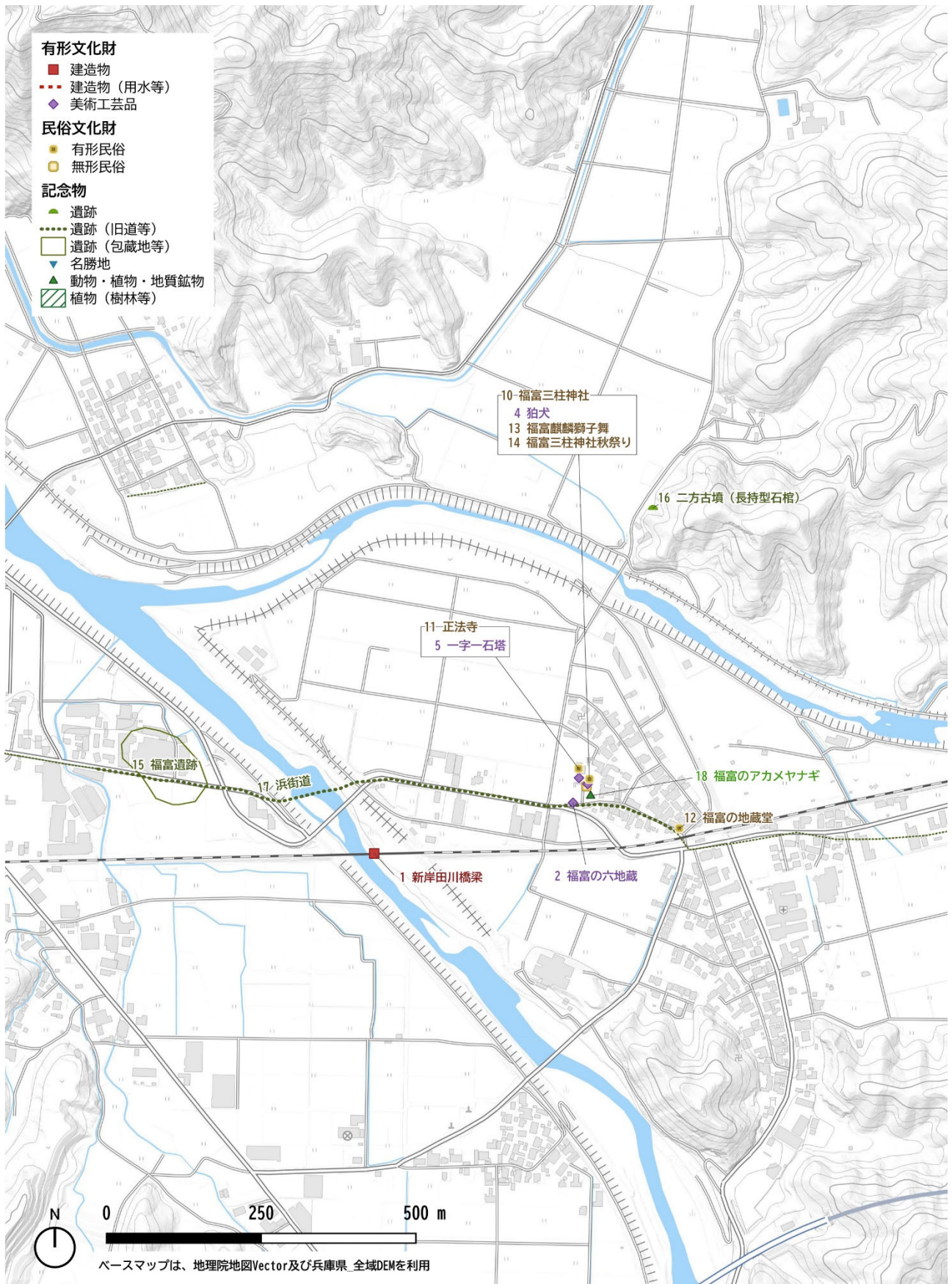
二方古墳



福富のアカメヤナギ

※人口・世帯数は住民基本台帳 (令和5年4月現在) による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

## 2-02 福富

### 文化財の一覧

#### ■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
工作物・ その他の 構造物	1	新岸田川橋梁	「新」とあるのは川替えの名残り。たびたび氾濫した岸田川の付け替えは、昭和9年(1934)9月の大水害後に着手。工事は昭和12年(1937)に開始し、鉄橋は同15年(1940)に新設された。

#### ■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	2	福富の六地藏	福富の三柱神社の鳥居西側、公園隅に道路に南面して位置する。「文化十年酉(1813)」「願主当村講中」とある。
	3	正法寺の如意輪観音像	正法寺の本尊。江戸時代のものと思われる。
工芸品	4	福富三柱神社の狛犬 (1911年建立)	山陰本線の鉄道工事の終わった明治44年(1911)3月建立。奉納者は山陰本線建設に従事した人々で基礎石に名前が刻まれている。その一人に、後に皆生温泉の開発に尽力した田君出身の有本松太郎氏の名もある。砂岩製で高さ124cm。
	5	正法寺の一字一石塔 (1889年建立)	安山岩の卵塔型。高さ120cm。明治22年(1889)7月建立。主碑銘は「金剛塔」。

#### ■ 無形文化財

分類	番号	名称	概要
音楽	6	福富の嫁入り唄 (実家を出発する時の唄)	※『但馬二方の民間芸能』(昭和56年、大森恵子著、但馬民俗芸能研究会・浜坂町教育委員会発行) p149 参照
	7	福富の嫁入り唄 (道中唄)	※『但馬二方の民間芸能』(昭和56年、大森恵子著、但馬民俗芸能研究会・浜坂町教育委員会発行) p150 参照
	8	福富の仕事唄 (もみひき唄)	※『但馬二方の民間芸能』(昭和56年、大森恵子著、但馬民俗芸能研究会・浜坂町教育委員会発行) p151 参照
	9	仕事唄 (田白唄)	※『但馬二方の民間芸能』(昭和56年、大森恵子著、但馬民俗芸能研究会・浜坂町教育委員会発行) p152 参照

#### ■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	10	福富三柱神社	祭神は大國主命、素戔鳴尊、稲田女命。創立年月は不明であるが、寛文5年(1665)、文政6年(1823)に社殿を再建したことが記録に残る。明治6年(1873)10月に村社に列せられる。境内社には、八幡神社(誉田別命)、土原神社(大己貴命)、稻荷神社(保食神)がある。
	11	正法寺	貞享2年(1685)田井楞嚴寺の末庵として開基された寺。明治14年(1881)頃から同29年(1896)まで住職を務めた楽々北隠は、正法寺で私塾を開いて、まず中学程度以上の儒学を授け、また学校の教員たちの夜学指導もしていた。後に天竜寺の管長となった関精拙も通っていた。
	12	福富の地藏堂	但馬六十六地藏尊霊場の第二番札所で、「境地蔵」と呼ばれ、「大川(岸田川)の渡し」の守護でもあった。元の地藏堂は宝暦7年(1755)の建立と伝わる。御詠歌「にしよりも たへなるいろや ふくとみの 地藏の庭は 浄土なるらん」「沖よりも 吹き来る風を 吹き寄せて ぐぜいの船の いづるそのまを」

## ■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・ 民俗芸能	13	福富麒麟獅子舞	9月28日の福富三柱神社例祭で奉納される。神前で奉納した後、各戸を門付してまわる。福富麒麟獅子保存会により伝承されている。 国指定重要無形民俗文化財（「因幡・但馬の麒麟獅子舞」として）
	14	福富三柱神社秋祭り	9月28日に行われる。

## ■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
散布地・ 集落跡・ 生産遺跡等	15	福富遺跡	古墳時代の散布地。マンホール設置工事中に須恵器片が出土。
古墳・ その他の墓	16	二方古墳（長持型石棺）	一部破壊されているが、横穴式石室を伴う直径約10m前後の円墳であったとされる。現在は、長さが2.7m、幅が90cm、高さが約50cmの石棺が露出している。以前は長持型石棺とされていたが、家形石棺と考えられる。出土品や石棺の形態から二方古墳は、古墳時代後期（6世紀後半）頃に造られたと考えられる。 町指定文化財
街道・古道等	17	浜街道	歴史的には「因幡道」「湯島道」とも呼ばれ、豊岡から鳥取間を結ぶ。江戸時代の浜街道を「古道」、明治時代の浜街道を「旧道」と呼ぶ。ルートはほぼ現在の国道178号に沿い、道幅は街中で約2間、平地は1間、山中では約半町であった。浜坂村・森秀助の『出雲紀行』や但馬国美含郡轟村・細田方斎の『因幡行日記』などの紀行文、伊能忠敬測量日記（第5次）などに浜街道が使われた記録が残る。久美浜代官が領内巡検のために浜街道を使ったことや、庶民も浜街道を使って往来していたことも知られる。

## ■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
植物	18	福富のアカメヤナギ	福富三柱神社の境内にあるアカメヤナギは、幹回り4.5m、高さ15～20m、枝張りが12～15m前後ある。アカメヤナギの語源は、初夏の新芽が鮮紅色をおびることからであり、別名マルバヤナギは、葉が広くてまるいことから呼ばれる。推定樹齢150年とも、300年とも言われ、地域のシンボルとして長年親しまれている。 県指定天然記念物、県指定郷土記念物